

## 第4回専門職大学基本計画検討委員会の開催結果について

1 日時 令和3年11月24日（水） 10:15～12:00

### 2 委員会出席者

- 会長 生源寺眞一（福島大学食農学類長）
- 委員

芦谷竜矢（山形大学農学部教授）、今井敏（（独）農林漁業信用基金理事長）、牛尾陽子（東北大学監事）、小沢互（山形大学農学部教授）、神山修（専門職大学整備推進監）、北柴大泰（東北大学農学部教授）柴田晋吾（上智大学教授）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、村松真（山形大学地域教育文化学部准教授）、五十嵐一雄（山形県認定農業者協議会会長）、伊藤倫子（米沢牛いとう牧場（株））、早坂和紀（（株）SAKU-Labo取締役）、八鍬良則（（株）ムラサキ産業代表取締役）、遠田勝久（（有）遠田林産代表取締役）、阿部清（（公財）やまがた農業支援センター副理事長）、後藤雅喜（山形県農業協同組合中央会常務理事）、舟越利弘（山形県立農林大学校長）

### 3 会議の概要

事務局から「今後のスケジュール」、「教員確保の状況」、「キャンパス整備」及び「第3回委員会後の検討（変更）状況」について資料により説明の上、意見交換を行った。

#### 【主な意見】

##### ○ 学科名の見直しについて

- ・名称の変更によって魅力的なものに繋がるのではないかと思う。また、そうなるように、今後実態を伴ったものになることを期待している。

##### ○ カリキュラムの変更について

- ・英語を直訳して考えたものと思われる「非木材森林産品」より、「特用林産物」という言葉の方が我が国では一般的であると思う。「非木材森林産品」という名称であるが、「特用林産物」を学んでいることを、学生や就職先である業界に対して、しっかりと説明することが必要ではないか。
- ・今回の見直しは、環境寄り、既存大学で行っているものと似通ったものになっている気がする。環境は大切なことではあるが、専門職大学は、その他の大学で不足している、例えば造林等の実業のところを中心にしたものだと思うので、環境寄りにならないように林業や林産業をもう少し意識された講義を行うようお願いしたい。
- ・専門職大学と附属校となる農林大学校で共通性の高い科目は、同じ教員が担当するのが非常に合理的ではないかと思う。その場合、3年次編入なども考慮し、科目の開講時期を工夫する必要があるのではないか。
- ・一般教養科目で政治学概論、社会学概論、法律学概論、経済学入門などがあるが、少しでも良いので専門に触れられるような内容にしてはどうか。例えば、政治学であれば林政や農政を踏まえたものなどにすれば、4年間という短い期間の中でも無

駄なく学べるのではないか。

- ・SDGsという名称を冠している科目があることに、とても魅力を感じる。ただし、SDGsといっても分野は広いので、専門職大学ではSDGsの全体を教育していくのか、環境というところを教育していくのか、あるいはそれに関わることを教育していくのかということについて整理をお願いしたい。
- ・カリキュラムが具体的になったが、科目名のイメージでは、今の現場に沿ったものを学べるのか、現場が実際に今どういう状態にあるのか、技術をきちんと学べるのかなどがイメージしにくいのではないか。
- ・稲作や畜産などの一つの業種だけでなく、多角経営を考えている方にも対応できるようなカリキュラムを考えていただきたいと思う。
- ・学生自身が選択できる科目の幅が広がり、自由度が増し、より魅力的な内容になったのではないか。

### ○ 臨地実務実習先候補の追加選定について

- ・臨地実務実習先を東北各県に広げることについて、その趣旨には賛成する。一方で、学生の負担について懸念される。
- ・学生にとって、臨地実務実習が初めて本当の農業・林業に触れる機会になるが、初めての機会に失敗してしまうと農業や林業を嫌いになる可能性がある。学生が山形、日本で農業をしようと思える素晴らしい出会いになるよう、実習先を選択する際の判断基準の一つとして、実習先の経営者の教育内容や指導内容が大事になるのではないか。
- ・東北各県に広げることには賛成である。県外に行くことによって地元の良さや強みを再確認できるということもある。「東北」という名前を冠した大学だからというだけではなく、山形県の良さを知ってもらうためにも各県の現場に行き、そこでよりよい経営を学んできてもらい、地元の良さをよく分かってもらえるようになってほしい。
- ・実習先を県内から東北全体に広げるということについては賛成である。学生が行きたいところに行ければ良いと思う。学生負担の軽減策としては、研修施設などを設置している実習先に行く方が良いのではないか。

### ○ 授業料等について

- ・他の専門職大学等も参考にして、授業料や入学金を決めていただければと思う。

### ○ 専任教員の公募について

- ・教員のバランスも意識し、男性だけでなく女性も確保していただきたい。
- ・文部科学省から今後指摘されないよう、今回のカリキュラムの変更等と整合性がしっかりと取れた教員を採用した方がよい。
- ・自分が大学生だった頃の稲作、果樹、花き及び野菜の教員は、自身が研究したい内容を研究しており、現場の需要からかけ離れたことを研究している教員もいた。栽培各論の教員には、現場をよくご存知の方になっていただきたい。
- ・多くの方から応募をいただいて、より良い方を採用いただきたい。より多くの方から応募をいただくという観点で考えたときに、住まいについて、大学近隣の市町村にどの程度選択できる物件があるのかなど、教員に十分な住環境が準備できれば良いのではないかと思う。

## ○ PRについて

- ・今回の見直しや変更の趣旨について、学生側に伝わるよう工夫してもらいたい。
- ・学生に対して、科目ごとにどのようなことを学ぶのかということを知りやすく案内していただきたい。
- ・現在の高校1年生が最初の入学者になると思うが、専門職大学の具体的な情報が高校サイトにほとんどっていないのではないかと。高校1年の秋頃から進路指導が行われていくので、できるだけ早く、的確な情報が受験予定者に届くようにしていただきたい。

## ○ 全般的なことについて

- ・現在の農林大学校との関係をどのように整理していくのかは、とても難しい問題になると思う。例えば、経済的負担を考えると、農林大学校は格安でとても人気がある。3年次編入を設けるということは、当然それに合わせて農林大学校の内容も見直しするという考えがあり、専門職大学のカリキュラムや教育内容を考えていると思っている。
- ・森林業経営学科の学科名や科目が少し環境寄りになっているのではないかと。木こりになりたいという学生は職業観がすごく高く、そうした学生は環境のことも含めて一生懸命勉強する。一方で、環境を勉強したいという学生は、将来の職業観があいまいなまま入学してくることが多い気がする。職業観の高い学生を入れるようにしていただきたいと思う。

以上